

## 平成20年度 傾斜的研究費(全学分) 研究報告書

研究代表者 所属	産業技術大学院大学 創造技術専攻	フリガナ 研究代表者氏名	ハシモト ヒロシ 橋本 洋志	職	教授
研究分担者所 属		研究分担者氏名		職	

研究課題名	ものづくりアーキテクト育成のためのPBLに関する研究
研究実績の概要(600~800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)	
<p>産業技術大学院大学ではものづくりアーキテクトという人材像を次の二つに分類している。</p> <p>1. マーケットニーズを把握し、顧客に将来を語ることができ、次の製品のあるべき姿を描くことができる人材であり、商品を企画し、その開発を提案する商品企画責任者</p> <p>2. 製品企画の意志決定がなされた後、製品分野ごとに設計知識を駆使して最適なデザインから製造情報の確立までマネジメントできる開発責任者</p> <p>こうした2つの機能を併せ持ち、商品企画の提案から製品設計、製造にいたるまでを統括してマネジメントできる人材(ものづくりに関わるプロセス全体を見渡すことができる人材)の育成をPBLを通して行う。</p> <p>本研究では、創造技術専攻教員らの議論を通して、ものづくりアーキテクトが有すべき知識、スキル、コンピテンシーなどの資質に対する具体的指標を確立し、平成21年度実施予定のPBLについて、教育目標とそれを達成する過程の教育設計、および学生の達成度評価の仕組みを構築した。すなわち、</p> <p>I. PBL型演習科目を通して、備えるべき資質をコンピテンシー(業務遂行能力)と称し、特に、創造技術専攻に特有なコア・コンピテンシーに関しては、感性デザイン、機能デザイン、MOTなどの多分野を網羅した必須の5つの大項目と各3つの小項目を策定した。</p> <p>II. 上記の項目は、定量的な評価ができるようにして、学生が身につけるであろう資質の定量化が行うことの道筋をつけた。</p> <p>III. PBL型演習の毎週の活動の報告、進捗状況評価などをiPBLシステムを通して、記録できるようにした。</p>	

## 平成20年度 傾斜的研究費(全学分) 研究報告書

学会発表(発表題目、発表大会名、年月を記入)					
特になし					
論文発表又は著書発行(発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入)					
特になし					
科学研究費補助金への応募状況、採択状況					
特になし					
国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況					
特になし					
その他社会貢献 [公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]					
特になし					
研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況					
工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類・番号	出願年月日	取得年月日
特になし					